加工物流機能を強化

CAD要員の環境を整える

ナカザワ建販

ナカザワ建販（大阪府岸和田市、四本敦緒社長）は、和歌山県内に在来軸組工法や金物工法向けのプレカット工場（第1、2）を運営している。月間供給量は2工場合わせて平均で9400坪だが、2016年の繁忙期には月間1万坪を加工した。16年の年間供給量は10万5000坪で、17年は11万4000坪を計画している。「当社は営業担当者が多く、建材流通業としてのプレカット供給をしている」（同社）。

同社は加工物流機能を強化し、幅広い住宅資材をプレカット加工することで施工の高品質化や合理化、工期短縮、職人不足に対応している。加工納品するのは構造プレカットを軸に羽柄材、合板、大壁パネル、窯業系サイディング、ユニット配管、電線ユニットなど幅広いのが特徴だ。また、構造プレカットに利用するCADデータを基に、あらゆる住宅設計情報を網羅し、工務店への様々なバックアップ体制の構築を目指している。

一方、CADの生産性向上にも余念がない。現在、CAD要員は実務担当が30人のほか、16年1月に開設したベトナムのCADセンターに7人を配置している。「CADを安定させることが近道だ。CAD要員の環境を整えることで生産性が改善し、安定的に業務を行え、その結果として惜しみないサービスが提供できる」（同社）。

さらに、構造と連携して供給する大壁パネルの供給量は月間70棟で、今後は110棟の生産体制を目指す。大壁パネルは住宅の外壁をパネル化するもので、1階パネル、2階パネル、妻壁、バルコニー部用など部材ごとに生産、開口部の取り付け位置を反映させる。

サイディングプレカットは、13年春から貝塚サイディングプレカット工場に加工機を導入して本格稼働している。現在月間30棟ペースで加工しており、早期に棟数を増やしていく方針だ。

和歌山県にある同社プレカット事業部CADステーション

★ットや物販に加え、新規事業として大工を育成している。「今後は大工育成が急務だ。しかし、育成には時間が掛かる。特に工務店の建て方の応援を担う職人を育てたい」（同社）と話し、高校を出たばかりの3人を雇って大工の育成をしている。

また、外部の研修機関への積極的な参加などによる人材教育とともに、社員が主体となって安全衛生委員会、時短委員会（労働時間短縮のため）などを軌道に乗せ、社員自らが会社を良くしていく帰属意識やモチベーションの向上も図っている。

こうした取り組みが実績として表れ、11年には兵庫県などが立ち上げた公益財団法人兵庫県勤労福祉協会「ひょうご仕事と生活センター」から企業表彰を受けた。

オリジナル工法への取り組みも同社の特徴で、07年には断熱材加工メーカーと連携して発泡断熱工法「サットパネル21」を開発。同年12月には次世代省エネルギー住宅の型式認定も取得した。

同社はOCHI・HD（福岡市）傘下のプレカット工場で、同ホールディングスが5月に広島県のプレカット工場、西日本プレカットセンター（広島県尾道市）を買収したため、グループの2×4やプレカットとしては4工場体制となっている。

西日本プレカットセンターは佐賀県、兵庫県から見てほぼ中間地に当たり、ヨドプレではより連携を強めてエリア販売を強化するほか、加工やCADオペレーションなどの面でも連携を図りシナジー効果を狙うという。

ベトナムCAD入力7万坪に拡大

幅広い入力業務を展開

ハウステクノ

ハウステクノ（大阪府貝塚市、永田秀俊社長）は、本社工場のプレカット生産を筆頭に、グループ工場・コウヨウ（三重県松阪市）で非住宅向けプレカットやベトナムでのCADオペレーションサービスなどを展開している。

特に力を入れているのがベトナムでのCADオペレーションシステムだ。これは子会社のソンタン（ホーチミン、グイエン・チュ・タン社長）が取り組んでいる大手ビルダーや構造プレカット工場向けの入力代行のほか、加工部材も構造材、羽柄材、合板、サイディングに加えて石膏ボードや軽天、ALC、太陽光発電用架台（アルミ）など幅広い入力業務を行っている。このうち、住宅向けとして3D建築CADシステム「アーキトレンド」を使用しており、2015年1月からは住宅会社と設計データ交換の電子化を行っている。

構造用プレカットについては宮川工機のMP-CADとネットイーグル、トーアエンジニアリング製CADも導入しており、国内のあらゆるプレカット工場に対応できる。現在、ソンタンのオペレーターは120人体制で月間入力7万坪にまで拡大した。今後は、大手ビルダー専門のCADオペレーション会社をベトナムに設立することも視野に入れている。

プレカットの加工量は、ハウステクノが月間供給量3500～4000坪で、コウヨウは同600坪の規模だ。ハウステクノの設備は、構造材の柱材加工機（宮川工機MPS-34）1台、構造材の横架材加工機（同MPS-15、MPS-25）1台、羽柄材加工機1台、合板加工機1台の1ライン体制だ。

また、金物工法にはテックワンP3金物を採用しており、在来工法では欠点となる断面欠損も最小限にとどめた理想的な工法だ。

非住宅向け供給に注力

フンデガー稼働順調

岡本銘木店

岡本銘木店（大阪府吹田市、佐藤原二社長）は、在来軸組プレカットを行う三田工場（兵庫県三田市）とSE構法向けプレカットを行う京都工場（京都府八幡市）の2工場体制で加工を行っている。月間供給坪数は三田工場が4000坪弱で、京都工場の1000坪と合わせて5000坪弱を出荷している。

同社では、将来的に新設住宅着工戸数が減少に向うため非住宅向けプレカットの供給に力を入れている。2016年9月には三田工場にフンデガー（ドイツ）の特殊加工機K2iを導入し、加工精度を上げるための調整を行って、同年12月から本格稼働した。同機は300×1250㎜の大断面材に対応するほか、長尺材では13㍍までの加工が可能だ。

同社では、特に需要の高まる太角に対応するため、450㎜角の材料加工を行っている。CLT加工では、原板を製造するメーカーと連携してCAD部門を強化し、K2i専用のHSB2台とネットイーグルXF15の2台を導入。CAD要員は心斎橋CADセンターのほか、他物件でもCLTを受ける集成材の加工なども行っている。「現在、中大規模の物件は仕事がつまってきた」（佐藤社長）。

一方、京都工場はSE構法の指定工場として、SE構法専用の機械設備を備えるCAD／CAMによる全自動加工に対応し順調に稼働している。

また、K2iでSE構法向けの高度加工にも対応する。

築物や非住宅の大型建築物、CLT建築物などへの提案を強化していく方針だ。同社では、高知県立林業大学校校舎の大断面集成材

三田工場に設備されたフンデガーが稼働率を高めている

私達の仕事は人の暮らしを支える誇りある仕事。物を売るだけではありません。安全や安心を提供するのです。
販売競争の中でつい忘れがちになりますが、その心をいつも大切にしたいと考えています。
前途多難な住宅市場ですが、業界発展に貢献できるように…

住宅の骨組みを支えるプレカット

株式会社　朝間商会
和歌山市西浜1660-71
TEL 073-448-2266

ホリモク株式会社
京都府城陽市市辺五島84-2
TEL 0774-52-0032

株式会社　岡本銘木店
大阪府吹田市岸部北5-32-1
TEL 06-6388-3411

ハウステクノ　株式会社
大阪府貝塚市木積13番地
TEL 072-446-0663

株式会社　ナカムラ
兵庫県篠山市栗栖野27-1
TEL 079-595-1515

ナカザワ建販　株式会社
大阪府岸和田市額原町180
TEL 072-441-3580

角野産業　株式会社
大阪府堺市堺区出島海岸通4-5-29
TEL 072-247-0011

村上木材　株式会社
プレテック　株式会社
大阪市住之江区平林南2-11-108
TEL 06-6685-0431

株式会社　山長商店
和歌山県田辺市新庄町377
TEL 0739-22-2605

ヨドプレ　株式会社
兵庫県加西市田原町宮ノ谷3179-3
TEL 0790-49-1511